

工事の げんば 現場より



今はこんな様子だよ。



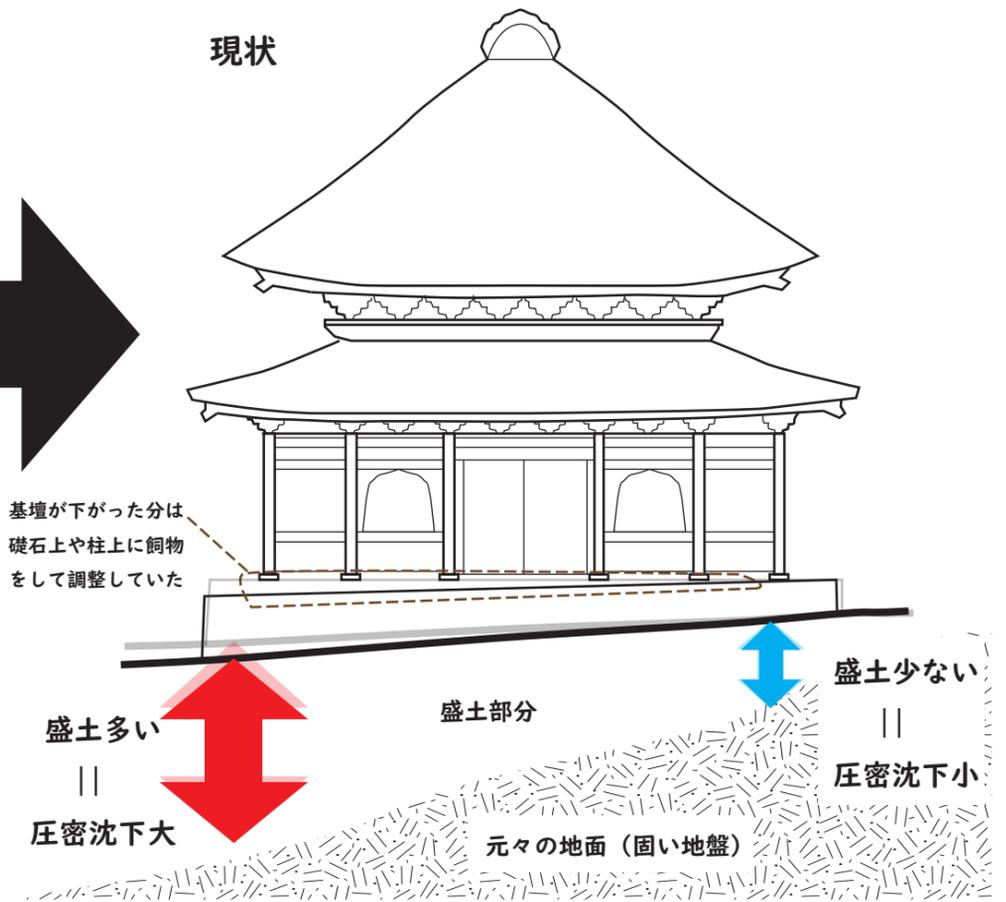
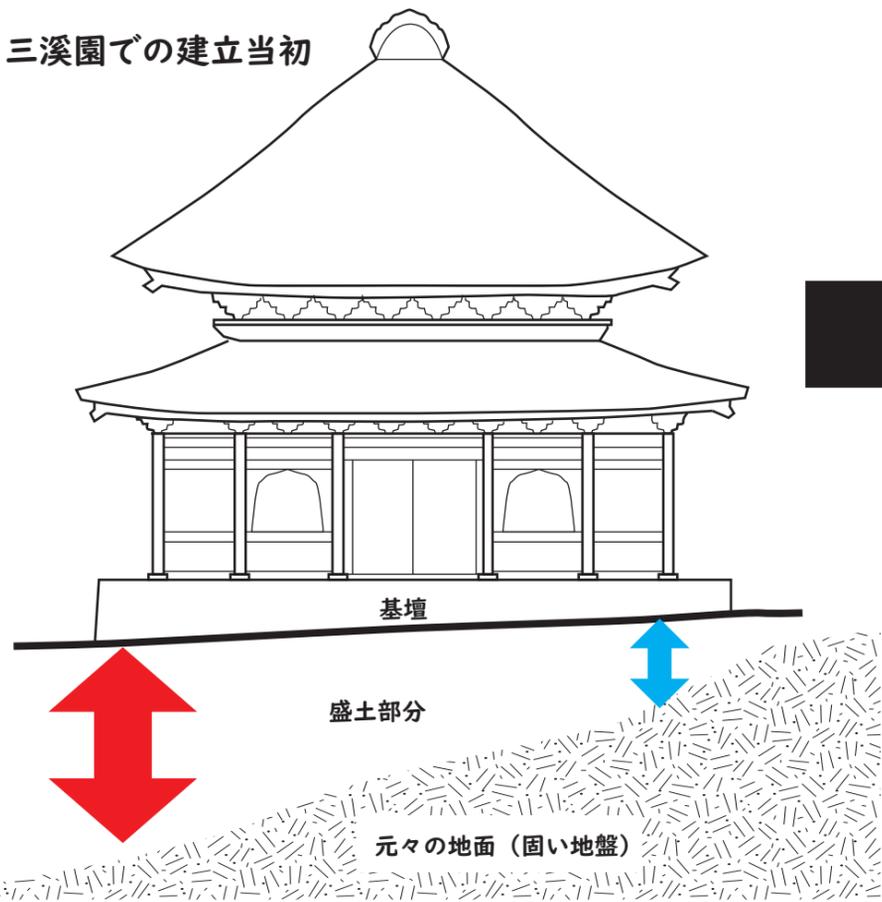
11月3週目

旧東慶寺仏殿は、もともとが傾斜した地面に建てられており、建設にあたり盛土がなされていきました。この盛土部分が圧密沈下※により沈む際、盛土量の少ない後方より多い前方の沈下が大きく、結果基壇上部が水平でなくなっていました。昭和修理時には木やモルタルを挟んで建物の水平を保つ応急処置をしましたが、保存上ふさわしくないことから、今回の工事では基壇上の礎石の高さを揃え直す調整作業を実施することになりました。礎石を据え直すには上に載っている建物をどかさす必要があり、建物を一度持ち上げる「揚屋」という作業を行います。

圧密沈下による基壇不陸

※イメージ図

※圧密沈下：水分が多い地盤の上に建物を建設した際、建物の重みで地盤中の水分が徐々に減り、地盤全体の体積が減少することによって地盤が沈む現象。



昭和修理時に調整用に入れたモルタル

建物を建った状態のまま上に持ち上げる作業を「揚屋」、揚げた建物を移動させる技術を「曳家」といいます。かつては一般住宅でも行われることがありましたが、最近では滅多に行われません。建造物を長持ちさせる技術の一つである「揚屋」の作業、どんなになるか楽しみだな～

